

整理番号 : HC-2000

化学製品安全データシート[MSDS]

HC-2000

作成日 : 2007年6月22日

改訂日 : 2010年12月20日

1. 製品及び会社情報

【製品名】

製品名 : HC-2000
管理番号 : HC-2000
製品分類 : 水溶性 弱アルカリ性 洗浄剤
推奨用途 : 脱脂洗浄剤

【製造者情報】

社名 : Bio-Circle Surface Technology GmbH
住所 : Berensweg 200, D-33334 Gutersloh, Germany
電話番号: 001-49-5241-94430 FAX番号: 001-49-5241-944344

【輸入・販売元】

社名 : 株式会社 第一システム
住所 : 岐阜県岐阜市光町3-1
電話番号: 058-232-1121 FAX番号: 058-232-7589
担当者 : 横山 俊明

2. 危険性有害性の要約

【GHS分類】

物理化学的危険性	: 引火性液体	区分外
	自然発火性液体	区分外
健康に対する有害性	: 急性毒性(経口)	区分外
	急性毒性(経皮)	区分外
	皮膚腐食性・刺激性	区分 3
	眼に対する重篤な損傷・眼	区分 2B
	皮膚感作性	区分外
	特定標的臓器・全身毒性 (単回ばく露)	区分 3 (気道刺激性)
	特定標的臓器・全身毒性 (反復ばく露)	区分外

【ラベル要素】

絵表示又はシンボル :



絵表示又はシンボル : 感嘆符【呼吸器への刺激のおそれ(ミスト):区分3】
注意喚起語 : 警告
危険有害性情報 : 呼吸器への刺激のおそれ:3(気道刺激性) 警告《感嘆符》
軽度の皮膚刺激 : 3 警告《シンボルなし》
眼刺激 : 2B 警告《シンボルなし》

注意書き

: 【安全対策】

ミスト、蒸気、スプレーを吸入しないこと。

容器充填時、噴霧を伴う作業の場合、防塵マスク、簡易防塵マスクなどの適切な呼吸器保護具を着用する。

ポリエチレン、ラテックス、ニトリルなどの一般的保護手袋、製品の飛沫や、洗浄廃液が目に入ることを防ぐことが可能な形状の、「飛来物・液体飛沫防止用保護眼鏡」を着用する。

屋外又は換気の良い区域でのみ使用すること。

取扱い後はよく手を洗うこと。

【救急処置】

多量に吸入した場合、空気の新鮮な場所に移動し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。

眼に入った場合:水で数分間注意深く洗うこと。コンタクトレンズを容易に外せる場合には外して洗うこと。

皮膚に付着した場合、多量の水と石鹼で洗うこと。

汚染された保護衣を再使用する場合には洗濯すること。

眼の刺激が持続する場合は、医師の診断、手当てを受けること。

気分が悪い時は、医師の診断、手当てを受けること。

皮膚刺激があれば、医師の診断、手当てを受けること。

【保管】

容器を密閉して換気の良い場所で施錠して保管すること。

容器種類は「7項:取扱上の注意」の記載項目に従う。

【廃棄】

内容物や容器を、都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に業務委託すること。

国/地域情報 : 日本国

3. 組成、成分情報

単一製品・混合品の区別：混合品

成分名称(化学名)	含有量 (W%)	CAS No.
ニトリルトリ酢酸 トリナトリウム=2, 2', 2''-ニトリロトリアセタート Trisodium 2,2',2''-Nitrilotriacetate C6H6NNa3O6 ICSC No. 1240、PRTR管理対象外	3.0～ 5.0	5064-31-3
メタケイ酸ナトリウム Disodium silicate, Pentahydrate ICSC 検索記載なし、PRTR 管理対象外	0.5～ 2.0	10213-79-3
スルホン酸ナトリウム ナトリウム=イソプロピルベンゼンスルホナート Sodium isopropylbenzenesulfonate C9H11NaO3S ICSC 検索記載なし、PRTR管理対象外	2.0～ 5.0	28348-53-0
水酸化カリウム (1)-369 Potassium Hydroxide HKO ICSC No. 357、PRTR管理対象外	0.5	1310-58-3
アニオン系界面活性剤	5.0	開示せず
水	100%に なるまで	7732-18-5

化学特性(化学式又は構造式)

成分名称(化学名)	化学式
水酸化カリウム (1)-369	KOH

官報公示整理番号

成分名称(化学名)	官報公示整理番号
水酸化カリウム Potassium Hydroxide	(1)-369

4. 応急措置

- 目に入った場合 : すぐに清水で十分に洗い流す
皮膚に付着した場合 : 長時間の接触時は、清水で十分に洗い流す
吸入した場合 : 新鮮な空気のある場所に移動し、呼吸しやすい姿勢で休息させる
飲込んだ場合 : 口をすすぐ 無理に吐かせない

5. 火災時の措置

- 適切消火剤 : すべての消火剤が適用可能

6. 漏出時の措置

- 特別技術員の必要性 : 特に必要としない
洗浄/除去方法 : 大量の水で洗い流す
布・紙により吸着し、これらは乾燥後、素材に適した地域の廃棄基準に従って廃棄する。

7. 取扱上の注意

- ・取扱い : 使用ならびに、移替え作業においては、ポリエチレン、ラテックス、ニトリルなどの一般的保護手袋を使用する。
- ・保管 : 容器は密閉し、零下の温度を避けて保管する。
最低保管場所温度(2℃) 最大保管場所温度(50℃)
- ・容器包装材料 : 保存および輸送には、ポリエチレン製容器を用いる。
一斗缶(金属缶)を用いる場合は、ポリエチレン内装により対薬品性を有する KHK(危険物保安協会)の認可品である、「アトロン缶」相当の危険物運搬適合容器を用いる。
(対薬品性を持たない「塗料缶」を用いてはならない。)

8. 暴露防止の措置

- 最高作業濃度 : 記載なし
設備対策 : 特になし
保護具 : 目の保護 ・容器充填時、噴霧を伴う作業の場合、飛来物・液体飛沫防止用保護メガネの着用を推奨する。
皮膚の保護 ・長時間接触する場合はポリエチレン、ラテックス、ニトリルなどの一般的保護手袋を使用する。
呼吸器の保護 ・容器充填時、噴霧を伴う作業の場合、防じんマスク、簡易防じんマスクなどの適切な呼吸器保護具を着用する。

9. 物理的及び化学的性質

状態	: 液体
色	: 微赤～橙色 透明
におい	: なし
沸点	: 98℃
融点	: 0℃
揮発性	: 無し
引火性	: 無し
密度	: 1.04g/cm ³ (20℃)
溶解度	: 水に溶解性
pH値	: 10.5 (20℃)

10. 安定性及び反応性

加熱分解性	: なし
危険反応性	: 引火点 不明 自然発火点 不明
	: 爆発下限界 不明 爆発上限界 不明
	: 可燃性 なし
	: 発火性 なし
	: 酸化性 なし
安定性	: 自然変化なし(密閉状態で色度の若干の低下)

11. 有害性情報

人体に対して重大な有害物質とは見なされていない。

健康に対する有害性	: 急性毒性(経口)	区分外
	: 急性毒性(経皮)	区分外
	: 皮膚腐食性・刺激性	区分 3
	: 眼に対する重篤な損傷・眼	区分 2B 眼刺激
	: 皮膚感作性	区分外
	: 特定標的臓器・全身毒性 (単回ばく露)	区分 3(気道刺激性)
	: 特定標的臓器・全身毒性 (反復ばく露)	区分外

12. 環境影響情報

水生環境急性有害性	: 区分外
水生環境慢性有害性	: 区分外
分解性	: 生分解性を持つ
成分	: リン酸を含まない

13. 廃棄上の注意

残余廃棄物：廃棄方法については、政令および各地区下水道法および、施設の有する下水処理施設の基準に従うこと。

容器／包装：容器は清浄にしてリサイクルするか、関連法規ならびに地方自治体の基準に従って適切な処分を行う。

14. 輸送上の注意

容器表示：危険物表示事項なし

陸上輸送：危険物表示事項なし

海上輸送：危険物表示事項なし

航空輸送：危険物表示事項なし

15. 主な適用法令

消防法：該当せず

労働安全衛生法：該当せず

危険物規制法：該当せず

港湾規制法：該当せず

航空法：該当せず

16. その他

- 1) 独立行政法人 製品評価技術基盤機構 「化学物質総合情報提供システム(CHRIP)」
<http://www.safe.nite.go.jp/japan/db.html>
「化審法データベース(J-CHECK)」
<http://www.safe.nite.go.jp/jcheck/Top.do>
- 2) 安全衛生情報センター「GHS対応モデルMSDS情報」
http://www.jaish.gr.jp/anzen_pg/GHS_MSD_FND.aspx
- 3) 総務省行政管理局 電子政府利用支援センター「法令データ提供システム」
<http://law.e-gov.go.jp/cgi-bin/idxsearch.cgi>
- 4) 国立医薬品食品衛生研究所(NIHS) 安全情報部「国際化学物質安全性カード日本語版」
<http://www.nihs.go.jp/ICSC/>
- 5) 財団法人化学物質評価研究機構「化学物質ハザードデータ集」
http://www.cerij.or.jp/db/sheet/sheet_idx.htm
- 6) 経済産業省・環境省「PRTR 排出量等算出マニュアル第4版」資料編(対象物質に関連する情報)
<http://www.env.go.jp/chemi/prtr/notification/calc.html>
- 7) 厚生労働省 労働基準情報「化学品の分類および表示に関する世界調和システム(GHS)」
附属書2、4 <http://www.mhlw.go.jp/bunya/roudoukijun/anzeneisei07/index.html>
- 8) UNECE “Globally Harmonized System of Classification and Labeling of Chemicals (GHS)”
http://www.unece.org/trans/danger/publi/ghs/ghs_rev02/02files_e.html

9) 大阪府生活環境の保全等に関する条例 第六章 化学物質の適正な管理
第八十一条二十二から三十一

http://www.pref.osaka.jp/houbun/reiki/reiki_honbun/k2010392001.html

<http://www.pref.osaka.jp/kankyohozen/shidou/kanri.html>

ここで記載された事項は、現時点で正確なものと考えておりますが、
危険性・有害性の評価は必ずしも完全ではなく、新知見により変わる場合があります。
又、特殊な取扱いが必要な場合は、用途用法に適した安全対策を実施してください。
尚、含有量・物理化学的性質は保証値ではありません。

災害事例：データなし